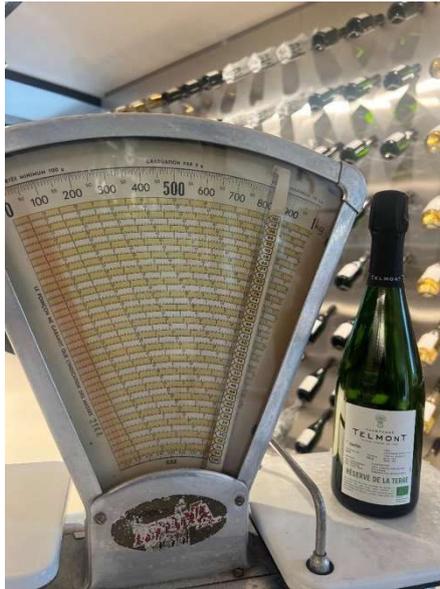


〈持続可能なシャンパーニュ造りに取り組む「テルモン」のイノベーション〉

シャンパーニュボトルの史上最軽量化開発に続き
ハーフボトルとマグナムボトルでの軽量化を実施



レミーコアントロージャパン株式会社（東京都港区／ゼネラルマネージャー ザビエ・タロ）とメゾン テルモンは、卓越した技術力を誇るヴェテリア社と共に開発した 800 グラムという史上最軽量のシャンパーニュボトルにて、瓶詰め、熟成、動瓶、澱抜き、梱包などから長距離輸送に至るシャンパーニュ生産サイクル全体を考慮した一連の耐圧テストを完了、さらに別サイズのボトルでもテストを開始しました。

テルモンは2021年6月以来、「母なる自然の名のもとに」プロジェクトのもとで、パッケージの徹底的な再考を含めた数多くの取り組みを行ってきました。835グラムから800グラムの軽量化をしても、ボトルの構造的な強度に影響がないことが分かり、超軽量ボトルへの切り替えの妥当性が明確になりました。これを受け、テルモンは今後シャンパーニュ全製品に軽量ボトルを使用する予定です。さらに、従来よりも軽量のハーフボトル（500グラムから460グラムへ）の採用をすでに開始し、マグナムボトル（1,730グラムから1,600グラムへ）のテスト計画を開始します。

ボトルに使用するガラスは、その製造プロセスからシャンパーニュメゾンの間接的な二酸化炭素排出量の大きな部分を占めています（メゾン・テルモンでは総排出量の24%）。ボトルの軽量化、つまり製造過程で使用するガラスの量の削減は環境負荷の軽減につながり、軽量ボトルにより4%台の環境負荷軽減が可能になります。また輸送燃料も削減でき、省エネを促進します。

環境負荷の軽減や、「母なる自然の名のもとに」プロジェクトの目標である「2030年までのクライメート・ポジティブ」、「2050年までのネット・ポジティブ」の達成を目指すメゾン・テルモンにとって、800グラムボトルの標準採用を大きな前進として、今後も歩みを進めてまいります。

